

『転入会の学び』

～私たちの信仰告白から～

Start date 20 年 月 日

End date 20 年 月 日

お名前 _____

箕面めぐみ聖書教会

(作成者: 山下 亘)

—Program—

序

『教会の大切な絆と信仰告白の歴史』

第一章

『聖書について』

第二章

『神について』

第三章

『父なる神について』

第四章

『人間・罪について』

第五章

『イエス・キリストについて』

第六章

『聖霊について』

第七章

『教会について』

第八章

『終わりの時について』

第九章

『転入会の手続きに関して』

—転入会について—

「転入会」とは、他教団の教会員であった兄弟を当教会の会員として迎え入れることです。それには、まずイエス・キリストを救い主と信じ、神の子とされ、洗礼を受けていることが必要です。それを踏まえて、私たちの教会の信仰告白を確認し、自ら転入会の申し出をしていただくことが望ましいです。信仰告白は、第1条に始まり、全部で八つの項目があります。

序：『教会の大切な絆と信仰告白の歴史』

第1条 本教団は、聖書の啓示するイエス・キリストを主とする公同教会の一員であり、聖書信仰に立って次の信仰を告白する。

「我らは、聖書において啓示され、使徒信条をはじめとする公同の信条を言い表し、宗教改革において鮮明にされた信仰にもとづいて、次のように信じ、告白する。

■ ポイント：公同教会、信仰告白、使徒信条、異端との違い

①公同教会とは、教会のかしらである（ ）のもとに集められた群れのことです。それは、場所や民族を超えて、また、歴史と世界を包含して存在している一つのキリストの（ ）を指しています。

②信仰告白とは、「私たちは何を、（ ）」ということをもとめたものです。同盟教団に所属する教会は、この信仰告白を絆として結ばれています。ですから、この信仰告白こそ、私たちの共通の（ ）ということができのです。

③信仰告白の基礎をなすのは、イエスさまが（ ）との問いに、ペテロが（ ）（マタイ 16:16）と告白したように、イエス・キリストに対する自分の信仰を明確な言葉をもって言い表すことです。

④教会の歴史の中では多くの信仰告白がなされてきました。最も古いものは（ ）です。正しい聖書の教えを告白することは、教会の中に（ ）考えが入り込んでくるのを防ぐことでもありました。今日も様々な異端や自由主義神学が私たちの周りにあります。私たちの信仰告白は、それらの誤った教えに対して、その立場を明白にするものです。

第一章『聖書について』

旧、新約聖書六六巻は、すべて神の靈感によって記された誤りのない神のことばであって、神の救いのご計画の全体を啓示し、救い主イエス・キリストを顕し、救いの道を教え、信仰と生活の唯一絶対の規範である。

■ポイント：六六巻の旧、新約聖書、聖書の靈感、神の救いのご計画、信仰と生活の規範

①私たちの信仰告白の基準は、あくまで（ ）です。（ ）という巻数は、プロテスタント教会にとって極めて重要です。カトリック教会は、旧約外典一二冊を加えて全部で七三巻を正典としています。外典を正典としないことには幾つもの理由があるのです。

②聖書は、すべて神の（ ）によって記された誤りのない神のことばです（Ⅱテモテ 3:16）。靈感とは、「神の息によるもの」という意味です。つまり、聖霊が（ ）たちの上に臨み、神ご自身の御旨、ご計画を表したものです（Ⅱペテロ 1:20-21）。

③聖書は（ ）神のことばである（聖書の無誤性）とは、救いや教理の面だけでなく、歴史や出来事のすべての事柄を指します。それは、聖書自体の（ ）に基づいて信じていることであって、科学的に証明された結果ではありません（Ex, 三位一体、キリストの処女降誕、復活など）。

④聖書は、救い主イエス・キリストを顕わし、（ ）を教える書です（Ⅱテモテ 3:15）。すなわち、キリスト・イエスに対する救いを指し示し、イエスが（ ）であることを証言しているのです（ヨハネ 5:39）。

⑤聖書は、クリスチャンの（ ）と（ ）の唯一絶対の規範です。聖書以外に救いの道が記されている書はほかにありません。ですから、カトリックのように旧約外典や教会に与えられた伝承を聖書と同じ地位においたり、異端のように自分たちの勝手な（ ）で教典を作成している団体とは立場が違います（Ⅱペテロ 1:20）。

第二章『神について』

神は霊であり、唯一全能の主である。神は永遠に父と子と聖霊の三位一体であって、その本質において同一であり、力と栄光とを等しくする。

■ポイント：神は霊、唯一全能の主、三位一体の神

- ①人は神について正確に定義することはできません。無限の神を、()で罪深い人間が理解することは不可能です(ヨブ記 11:7)。私たちが得ることのできる神についての必要な知識は、私たちが頭で考えたり想像したりして得たものではなく、神が聖書によってご自分を()してくださった真理です。聖書以上に出たり、以下であったりしてはなりません。
- ②霊とは、物質とは違って、見ることも、触ることもできない()なものです(ルカ 24:24、39)。神は時間と空間を超えて、() (どこにでも同時に存在する)される人格的存在であります。汎神論のように自然界の中に分与されてあるということもありません。
- ③「神は霊である」とは、まずいかなる神の()も造ってはならず、これを礼拝してはならないということです(出エジプト 20:4)。また、「神を礼拝する者は、()と()によって礼拝しなければならない。」ということ覚えましょう(ヨハネ 4:24)。
- ④「神は唯一」とは、「主は私たちの神。主はただ()である。」(申命記 6:4)ということです。それゆえ、私たちはまず他の宗教、信仰、迷信などを厳しく否定しなければなりません。また、お金や趣味などを神以上に愛することも、()なる危険があります。
- ⑤「全能」とは、何でもできるという意味以上に、無限、永遠、不変という神の固有の()が読み取れます。また、能力だけでなく、知識、愛、義、聖などの道徳的なすべての属性においても()であるという意味を汲み取ることができるのです。
- ⑥「神は…その本質において同一」とは、()や()に等差はなく、平等、等位であるということです。三位一体の教理は、聖書信仰の独自性を表し、正統的キリスト教と()とを区別する大切な要素です。他宗教にはない、人間の理解を超えた奥義です。

第三章『父なる神について』

神は、永遠の御旨により万物を創造し、造られたものを摂理によって統べ治める絶対主権者である。

■ポイント：万物の創造主、神の摂理、全世界の統治者

①神の（ ）とは、神の決意や決意を言い表す言葉です。神は、「世界の基の置かれる前から（エペソ 1:4）ご計画を立てられ、それを、万物の創造と摂理の働きをもって実行に移されたのです。また、御旨の実行は、（ ）を通してなされました。

②神は、みことばによって、無から万物を創造されました（ヘブル 1:2、3）。創世記 1 章は全能の神が御力をもって（ ）を創造したこと、二章は神が整えられた世界に（ ）を創造し、神の創造のみわざにみられる御力、計画性、恵みを明らかにしています。

③神は、創造された万物を何事によらず起こってくるすべてのことを細大もらさず、緻密な（ ）の内に支配なさいます。摂理とは、神の計画的支配（ ）のことです。自然の営みも、人間の歴史も、教会の営みも、すべて偶然や不確定はなく、神の（ ）の中にあるのです（ローマ 8:28）。

④参考までに、人間が作り出した宗教の「神」は、多神教のように有限な人格の神々か、汎神論のように無限な非人格的な「もの」です。しかし、まことの神は、無限の人格（知識、感情、意思）をお持ちの方です。

この世には多くの宗教がある。それらの宗教を調べると、そこで語られる神々とは、

- ・人格的ではあるけれど有限である（古事記のアマテラスオオミカミ、スサノウノミコ）
- ・無限ではあるけれど人格ではない（宇宙自然のすべては一つの「神の現れである」）

の二通りである。

第四章『人間・罪について』

はじめに人は、神のかたちに創造され、神と正しい関係にあった。しかしサタンに誘惑され、神の戒めに背いて罪を犯し、神のかたちを毀損した。それゆえ、すべての人は生まれながら罪と悲惨、死の支配のもとにあり、思いと言葉と行為とにおいて罪ある者である。自分の努力によっては神に立ち返ることができず、永遠の滅びに至る。

■ポイント：神のかたち、罪の本質、罪と悲惨の状態、永遠の滅び

①神が人間を創造されたとき、人間は（ ）に似せて造られました（創世記 1:26）。神のかたちとは、肉体を指すではありません。人間の肉体は、神の姿に似せられたのでもなく、動物から進化したものでもなく、人間独自の神の（ ）なのです（エペソ 2:10）。

②人間は、神の正しさ、神の聖さに似せられ、神と共通する（ ）を持つ者となりました（エペソ 4:24）。このように神のかたちに似せられた人間は、神をほめたたえ、神は人間に語り、神との美しい（ ）の中にあり、神と正しい関係にありました（詩篇 8:5）。

③神に似せて造られた人間は、（ ）を持つ者となりました。それゆえ、人間は自ら考え、判断し、行動するという、主体性がありました。ところが、人間は神の意志に反するという、主体的な決断を下すことによって、（ ）を犯したのです（ローマ 3:23）。

④こうして罪を犯してしまった人間は、その時以来、神に似せられたかたちを（ ）してしまいました。人間の知性は暗くなり、神との正しい（ ）を失った人間は、真の神がわからなくなり、無知と頑なさによって、神から遠く離れる結果になったのです。

⑤聖書で言う「罪」とは、基本的には（ ）とか「脱線」という意味を持っていますが、厳密には二つの面があります。すなわち、本性の腐敗（罪性）とそれから出てくる行動です。この罪の結果、すべての人が思いとことばと行為において罪あるものとなり、神との交わりを喪失し、生まれながらの（ ）、また、サタンの奴隷となってしまったのです。

⑥人間の本性は、全く（ ）に傾いているため、どんなに努力して神を求めても、自分の力では神を知ることはできず、どのような善行を積んだとしても、聖なる神の御心を満足させることはできません。人間はもはや、永遠に神の前から失われ、滅びに定められたものとなったのです。罪の結果、三つの死（ 、 、 ）を迎えるのです。

第五章『イエス・キリストについて』

主イエス・キリストは、父なる神のひとり子であって、聖霊によって宿り、処女マリアより生まれたまことの神にしてまことの人である。主は我らに代わって十字架にかかり、死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死者の中からよみがえり、我らのために贖いを成し遂げ、我らに永遠のいのちを与えた。主は天に昇り、父なる神の右の座に着き、大祭司として今も我らのために執り成している。

■ポイント：救い主（メシア）、神のひとり子、二性一人格、贖い主、仲保者

①イエス・キリストは、旧約聖書に預言された、私たちの罪からの（ ）です。「キリスト」とは、メシア（ ）＝神に特別に選ばれた者）という意味です。旧約聖書には、救い主についての預言が 300 以上あると言われています。

②イエス・キリストは、神を父とするひとり子としての（ ）を有しておられます。イエスを単に神の子と言わずに、神のひとり子と呼ぶのは、イエスと神との関係が独特なものであることを表します。父なる神は、子なるイエスに一切の（ ）を委ねられました。

③イエス・キリストは、「聖霊によって宿り、処女マリアより生まれ…」とあるように、（ ）のお方です。それは、イエスが私たちと異なって（ ）のない方として誕生されたこと、しかも、罪以外はすべて私たちと同じ種類の（ ）をとって来られたということです（ヘブル 4:15、ピリピ 2:7-8）

④イエス・キリストは、100%（ ）であり、100%（ ）である方です（ヨハネ 14:9、10）。さらにパウロは、「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています」（コロサイ 2:9）とキリストの（ ）について説明しています。

⑤イエス・キリストの十字架と復活の事実は、私たちに対する贖いの業の完全性を表します。「贖い」とは、罪と永遠の滅びからの（ ）を意味します。すなわち、キリストは十字架の死を通して、罪人の私たちに対する（ ）をご自身の身に負ってくださったのです。

⑥十字架と復活によって私たちの贖い主となられたイエス・キリストは、今や（ ）として信じる者のために、神にとりなしてください（ヘブル 7:24、25）。キリストは、和解のいけにえとしてご自身を献げることによって、神との（ ）を完成してくださったのです。

第六章『聖霊について』

聖霊は、我らに父と子を示し、罪を認めさせ、赦しを与え、我らを新たに生まれさせ、神の子とする。人は、自分の行いによらず神の恵みにより、主イエス・キリストの贖いのゆえに、キリストを信じるただその信仰によって義と認められる。さらに、聖霊は、助け主、慰め主として我らの中に住み、我らを主と同じかたちに造りかえ、我らに御旨を行わせ、世の終わりまで我らとともにあり、我らをキリストとの共同相続人とする。

■ポイント：聖霊と啓示、聖霊と新生、聖霊と聖化、聖霊と保証（救い、共同相続人）

①三位一体の第三位格としての聖霊は、目に見えず、無形ですが、知・情・意をもつ（ ）存在です。そして、聖霊は、人間の知恵では知り得ない父と子に関する知識を（ ）、イエスが話したすべてのことを（ ）くださるのです（ヨハネ 14:26）。

②聖霊は、（ ）とも呼ばれ、クリスチャンをすべての真理に導くための働きをなさいます（ヨハネ 16:13）。聖霊は、自らの罪のために盲目となっている私たち人間の目を開き、（ ）を示し、自らの不義を語らせ、救い主イエス・キリストの必要を教える方です。

③聖霊は、（ ）をもたらします。新生は、人間的生命の改善ではなく、神的不いのちの賦与です（テトス 3:5）。聖霊は、人間に罪を悔い改めさせ、キリストを信じ受け入れさせ、新しく生まれさせます。信じた者は、神の家族の一員となり、（ ）となる特権が与えられるのです（ヨハネ 1:12）。

④自らの罪を悔い改め、救い主イエス・キリストを信じる者には、（ ）が住まわれます。そして、聖霊がその人の内に住んだ時より、（ ）が始まり、聖霊に支配される信仰生活を通して、より聖化が深められ、やがて御国での完全な聖化、すなわち（ ）されるのです（ピリピ 3:21、コロサイ 3:4）。

⑤聖霊は、（ ）とも呼ばれ、直訳的には「助けを求められる人」を意味します（ヨハネ 14:26）。また、内住の聖霊は、傍らを歩く同伴者のようでもあります。地上の生涯で、私たちの人格、品性の完成を見ることはできません。しかし、聖霊は、御言葉を通して励まし、慰め、救いに導いた者を必ず（ ）に迎え入れてくださるのです（エペソ 1:14）。

第七章『教会について』

教会は、聖霊によって召し出された神の民、主イエス・キリストをかしらとするからだであり、羊飼いなる主の御声にのみ聴き従う羊の群れである。地上の教会は、再び来られる主を待ち望みつつ礼拝し、みことばを説教し、聖礼典を執行し、戒規を重んじ、聖霊の力によって全世界に福音を宣べ伝える。

■ポイント：召し出された神の民、かしらなるキリスト、教会の目印、教会の務め

①教会は、キリストによって神から召し出された者の（ ）です（使徒 20:28）。神は今も多くの人々を召して、キリストの教会を建て、（ ）によって教会に生命を与えておられます（I コリント 3:16、エペソ 2:22）。

②教会は、神の国を現わすために、二つの面を持っています。「見えない教会」と「見える教会」という事柄です。見えない教会とは、教会のかしらであるキリストに結び合わされた今だけでなく、前の時代もこれからの時代も含めたすべての（ ）のことを言います。また、見える教会とは、（ ）で共同の教会が一つの時代、一つの場所に置かれて、キリストをかしらとしたキリストの見えるからだの教会を形成します。

③教会は、キリストの（ ）であり（エペソ 1:23）、ご自身の血をもって買い取られた（ ）です（使徒 20:28）。キリストの体である教会は、見えるものとして現され、かしらなるキリストに属し、キリストの（ ）のご計画の務めを担い果たしていきます。

④かしらなるキリストは、教会に神の（ ）の宣教と（ ）（洗礼と聖餐）とを与えられました（ヨハネ 5:39、I テサロニケ 2:13、使徒 20:32）。この事から、二つのものを持って務めを果たす教会が、真のキリストの教会を表すことになるのです。

⑤そのため見える教会は、キリストからの務めを果たすために、聖礼典を正しく行なければなりません。また、教会の活動のすべての源が（ ）であるならば、このために正しい（ ）が必要であり、そのための教会の制度が重んじられるべきです。

第八章『終わりの時について』

終わりの時に、主イエス・キリストはみからだをもって再臨し、生ける者と死せる者とを審判する。主は我らをからだをもってよみがえらせ、我らをご自身の栄光と同じ姿に造り変え、万物を新たにし、神の国を完成する。アーメン。」

■ポイント：終わりの時、みからだをもっての再臨、審判の主、神の国、究極的完成

①「終わりの時」に、栄光に輝くキリストが（ ）されます。但し「その日その時」は、（ ）だけがご存知であり、私たち人間には隠されています（マタイ 24:36）。もしその日を予告するような人がいるとすれば、偽キリストであり、偽預言者です。

②キリストの終末の預言や前兆についての教えは、マタイ 24 章に記されています。ここには、（ ）、苦難の時、人の子の到来、いちじくの木 of 教訓などが記されており、「その日その時」が近いことを知って、いつも（ ）と教えています。

③同じ「キリストの再臨」という言葉を使っているとしても、その理解によって大変な違いがあります。そのために私たちの信仰告白は（ ）と、はっきりと告白しています。キリストは（ ）の時と同じように、目に見えるお方として再び来られるのです。

④イエス・キリストが初めて来られたのは、世の（ ）としてですが、再び来られる時は（ ）として来られます。マタイ 25 章 31～34 節には、最後の審判の描写があります。また、御子を信じる者は（ ）を持つが、御子を持たない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまるのです（ヨハネ 3:36）。

⑤キリストの復活に続いて、キリストの再臨の時に、「キリストに属している者」、すなわち（ ）の復活があり、それから終わりが来ます（I コリント 15:24）。「終わりの日」とは、すべてが（ ）する日、最後の敵が征服され、王国がもたらされ、キリストの救いの御業の全課程が満たされ、キリストの者の救いが（ ）される日です。

⑥参考までに、（ ）については、ヨハネ黙示録 20 章 4、5 節、（ ）については、I テサロニケ 4 章 16～18 節などから学べます。また、キリストの（ ）の時期については、前千年説、後千年説、無千年説の三つの説があります。但し再臨において最後の審判を受けるにしても、今夜、肉体的死によって主の前に出るとしても、心構えは同じです。今日という日を、神を愛し、隣人を自分自身のように愛して歩みましょう。

第九章『転入会の手続きに関して』

「転入会の学び」を終えられた方は、次の手順で転入会の手続きを行ってください。

- ①まず牧師に相談する
- ②「転入会願書」を役員会に提出する
- ③役員会で審議・転入諮問会を行う
- ④証しを準備する（短くても構いません）
- ⑤転入会式を行う

転 入 会 願 書

年 月 日

日本福音 教会 御中
基督教徒 氏名 _____ 印

この度、御教会に転入会をさせていただきたく志願いたします。

ふりがな 氏 名		生年 月 日	年 月 日
住 所	電 話		
本 籍			
配偶者氏名 または 両親孝氏名	夫	妻	
	父	母	
世帯主氏名 と その続柄	世帯主名	続 柄	
家の宗教			
職業又は 学校名	名 称	所在地	
入会 式 日 時	日 時	年 月 日	
志願承認	年 月 日	原簿登記	年 月 日
備 考			

以 上

改訂履歴

- 2023年 4月 1日 施行
- 202 年 7月 9日 改訂